



投資環境

2024 年 6 月 13 日

F R B、利下げ開始にやや慎重姿勢

— 今回の F O M C のポイント —

- ✓ 7 会合連続で政策金利を据え置き
- ✓ 年内の利下げは 3 回から 1 回の見通しに
- ✓ ただ、2026 年までの利下げ回数は変わらず
- ✓ インフレ見通しは上方修正
- ✓ 市場の利下げの織り込みは後退せず

□ 7 会合連続の据え置き

米連邦準備理事会（F R B）は 6 月 11、12 日に開いた米連邦公開市場委員会（F O M C）で、政策金利の指標であるフェデラルファンド（F F）金利の誘導目標を 5.25～5.5% に据え置きました。据え置きは 7 会合連続となります。

声明文では「この数か月は 2 % の物価目標に向けた緩やかながらもさらなる進展があった」と指摘し、前回の「進展を欠いている」から表現を変えました。

ただ、「インフレ率が 2 % に持続的に向かっているというさらなる確信を持つに至るまでは、誘導目標の引き下げは適切ではないと委員会は考えている」との姿勢は維持しました。

パウエル議長は、インフレは大幅に緩和したものの、F R B はまだ利下げに自信が持てないと述べました。

□ インフレ見通しを上方修正

F O M C 参加者による米国経済見通しでは、米個人消費支出（P C E）物価指数の（エネルギーと食品を除く）コア指数の上昇率が 2024 末時点で 2.8% と、前回の 2.6% から上方修正されたことが目を引きました。ただ、パウエル議長はインフレ見通しの上方修正について「保守的な見積もりにすぎない」との見解も示しました（図表 1）。

また、12 日発表の 5 月の消費者物価指数（C P I）が市場予想を下回り、前月比では約 2 年ぶりに横

図表1. FOMCの米国経済見通し（2024年6月）

(%)

	中央値				中心レンジ			
	2024年	2025年	2026年	長期見通し	2024年	2025年	2026年	長期見通し
実質GDP成長率	2.1	2.0	2.0	1.8	1.9～2.3	1.8～2.2	1.8～2.1	1.7～2.0
3月の見通し	2.1	2.0	2.0	1.8	2.0～2.4	1.9～2.3	1.8～2.1	1.7～2.0
失業率	4.0	4.2	4.1	4.2	4.0～4.1	3.9～4.2	3.9～4.3	3.9～4.3
3月の見通し	4.0	4.1	4.0	4.1	3.9～4.1	3.9～4.2	3.9～4.3	3.8～4.3
PCE（個人消費支出）価格指数	2.6	2.3	2.0	2.0	2.5～2.9	2.2～2.4	2.0～2.1	2.0
3月の見通し	2.4	2.2	2.0	2.0	2.3～2.7	2.1～2.2	2.0～2.1	2.0
コアPCE価格指数	2.8	2.3	2.0		2.8～3.0	2.3～2.4	2.0～2.1	
3月の見通し	2.6	2.2	2.0		2.5～2.8	2.1～2.3	2.0～2.1	
政策金利	5.125	4.125	3.125	2.8	4.9～5.4	3.9～4.4	2.9～3.6	2.5～3.5
3月の見通し	4.625	3.875	3.125	2.6	4.6～5.1	3.4～4.1	2.6～3.4	2.5～3.1

※国内総生産（G D P）とPCE価格指数は第4四半期の前年同期比。失業率は第4四半期中の平均値
（出所）FRBの資料を基に、しんきん投信作成



ばいになったことについては、「今日のような数値は歓迎すべきことであり、今後も続くことを期待したい」とも語りました。

▣ 今年の利下げ回数が1回の見通しに

注目された政策金利見通しでは、今年の利下げ回数が前回3月の3回から、1回に減りました(図表2)。市場では2回が大方の予想でしたので、ややサプライズとなりました。とはいえ、19人中8人の参加者が2回の利下げ見通しとなっており、2回利下げの可能性は残ります。2026年までの利下げ回数は変わらず、早めの利下げ開始にやや慎重な姿勢がうかがえます。

12日の米金融市場では、年内の利下げ回数が1回の見通しに減ったことはサプライズながら、5月の米CPIを受け、インフレ鈍化の流れが続いているとして、米長期金利は低下、ドル円は下落する動きになりました。

市場が織り込む年内の利下げ回数についても若干増え、9月利下げ開始、12月追加利下げとの観測もくすぶります(図表3)。9月利下げ開始との見方が遠のくと、金融市場はやや不安定な動きとなることも想定されますが、早晚利下げに踏み切るとの期待が下支えしそうです。

しばらくは、物価や雇用の動向を確認しながら、9月利下げの有無などを占うことになりそうです。

図表2. FOMC参加者の政策金利見通し
－ 2024年6月 －

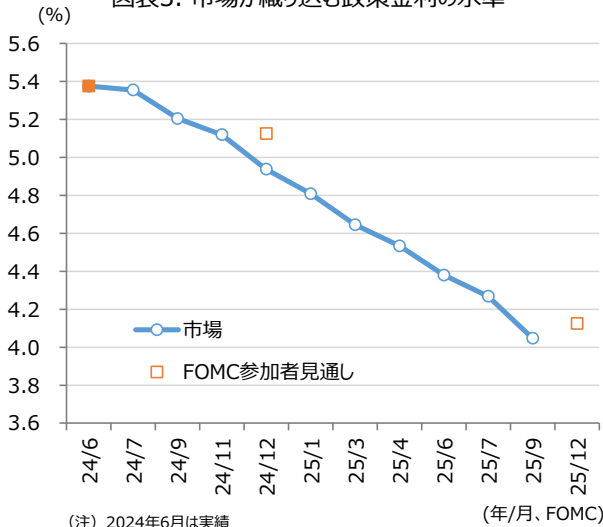
(参加者数)

目標レンジの中心、目標水準(%)	2024年	2025年	2026年	長期見通し
5.500				
5.375	4	1		
5.250				
5.125	7			
5.000				
4.875	8	1	1	
4.750				
4.625				
4.500				
4.375		4		
4.250				
4.125		9	1	
4.000				
3.875		2		
3.750				1
3.625		1	3	1
3.500				2
3.375			3	
3.250				
3.125			7	1
3.000				4
2.875		1	2	
2.750				3
2.625			1	1
2.500				5
2.375			1	1
2.250				

(注) 網掛けは中央値

(出所) F R Bの資料を基に、しんきん投信作成

図表3. 市場が織り込む政策金利の水準



(注) 2024年6月は実績
(出所) CME FedWatch、FRBよりデータ取得し、しんきん投信作成

(ストラテジスト 鈴木和仁)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。